指定校番号	28116	学級活動		児童会・生徒会活動	○	学校行事		別紙様式

平成28年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校　「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校　長	迫田　隆範	生徒指導主事	宮部　英巳

取 組 事 例 名　『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』

取　組　の　ね　ら　い『キーワード　自己肯定感の向上』

本校の生徒指導上の課題として，服装の乱れ，授業妨害，授業エスケープ，指導に従えない，暴言，携帯等の不要物の持ち込み，自転車通学違反，地域の施設や登下校でのマナーの悪さ，生徒間トラブルなどが挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり，生徒同士の関わり合いが十分行えていない状況が，全体の落ち着きのなさにつながっていると考えている。現状の改善のためには，生徒自身の自己肯定感を向上させ，自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり，生徒同士の結びつきを深め，自治活動を活性化させることが問題行動の減少につながると考えた。そのため，生徒会活動やボランティア活動等の，生徒の自治活動や主体的な活動の推進をすすめることをねらいとした。（今年度２年目）

取 組 の 具 体 的 内 容『キーワード　無理なくさらに進化』

平成２７年度の取組として，生徒会と連携し不十分な掃除から見直した。縦割りの掃除班をつくり，３年執行部＋有志を中心に掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。（無言清掃の取組）

平成２８年度には，学期前の掃除リーダーの育成，掃除分担の見直し，配置教職員との連携等，少しずつ変更を加えながら現在に至っている。また，並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ，放課後１５分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。

取組の課題・創意工夫『キーワード　レベルアップ』

今年度の取組は，昨年度の取組に修正を加えさらに深化させる方向で行っている。生徒会リーダーだけでなく教職員との連携を行うことで，生徒と教職員が共に目的を共有し，生徒が生徒を指導する負担感を軽減し，生徒間のトラブルを減少させる方向で行っている。掃除の質は確実に以前よりもよくなっていることから，さらに目的意識を明確にした無言清掃へとレベルを上げるのが今後の課題である。また，これと並行して行ってきたボランティア活動も，ペットボトルキャップ分別，折り鶴制作など，教職員・生徒共に無理なく計画・実行ができるようになり，各回約１００名程度の生徒が参加することができるボランティア活動になっている。

取組の成果（効果）『キーワード　意識の向上』

縦割り班での掃除は，取組前と比べて確実に向上し，生徒自らが主体的に掃除に取り組む姿が見られるようになった。また，掃除を徹底させるためには，ボランティア意識の向上も同時に取り組むことが必要である。ボランティア活動も毎回約１００名程度の参加となり意識の向上につながっている。

これらを生徒自らの自治活動で実行するよう，生徒会とも連携を深め，各委員会ごとに活動を決め，（各学級の掃除評価合計，各学級の日々の授業評価合計，各学級の本の貸し出し数合計等）学級単位で評価

をして，学期に１回表彰を行うＹＡＴＳＵＧＩ　ＰＲＩＤＥ　ＣＵＰ（ＹＰプロジェクト）という取組も昨年度から導入し，お互いが意識し合いながら高まる方法をとっている。

生徒のアンケート結果

○掃除を時間いっぱい行っている	（平成２７年７月	８４．４％）
	（平成２８年６月	８８．１％）
	（平成２９年１月	９０％）
○生徒会活動に積極的に取り組んでいる	（平成２７年７月	７９．９％）
	（平成２８年６月	７７．５％）
	（平成２９年１月	７７％）

今　後　の　展　開『キーワード　自分たちで』

生徒会の自治活動の活性化という点では，昨年より改善されつつある。「自分たちで」という意識の高まりの成果として，生徒会の行事として全校で参加できる行事を行おうという目標のもと『全校駅伝』を企画し運営した。全校生徒を縦割りの１６チームに分けてチームリーダーを決め，チームリーダーを中心として自分のチームの意識を高め，優勝をめざしてたすきをつないでいく。生徒会としては初めての試みの行事であり，自分たちの企画・運営ということもあり，この企画を全校生徒が一緒になってやってくれるかと心配した面もあったが，当日は開会式・閉会式を含め全校生徒が１人もいいかげんな走りをすることもなく，生徒全員で盛り上がった行事となった。生徒の中からは「来年もやってみたい」という感想も出るなど充実したものとなった。

一つの取組を単年度で終わらせることなく，修正・改善を加えてさらに意識づけを行っていく。意識の高まりが教職員や生徒の達成感につながり，さらに新しい取組へと深化していく。今後もさらに目的意識をもたせ，自己肯定感の向上につながるよう充実を図る取組を引き続いて行う予定である。

他校へのアドバイス『キーワード　教職員との連携と意識向上』

生徒の意識変革の前に，指導する教職員の意識変革が不可欠である。生徒会担当の教職員や各委員会担当の教職員との連携や調整が生活への指導の徹底や取組の充実につながる。今後も教職員・生徒の目的意識の向上を図り，生徒会への働きかけにより自治活動の活性化につなげていきたい。